

大田区区民協働推進会議 中間のまとめ

大田区区民協働推進会議では、大田区における区民協働の推進に向けての具体的な活動についての議論を重ねてきました。ここに『中間のまとめ』を作成しましたので報告いたします。

具体的なテーマを「地域防災」とし、残りの任期では、事業者や区民活動団体、区の役割を示し、連携・協働のあり方をまとめてまいります。今後とも、皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

大田区区民協働推進会議
会長 山岸 秀雄

< 設立までの経過 >

- 平成 13 年 3 月 長期基本計画「おおたプラン 2015」で、計画実現の基本姿勢を「区民との協働」とし、区と区民が協働することにより地域の問題を解決しようという「協働社会」の創造に向けて歩み始めました。
- 平成 14 年 11 月 「区民活動との連携・協働に係る基本方針等策定委員会（通称、おおたパートナーシップ会議）」を設置しました。
- 平成 16 年 3 月 基本方針策定に向けた答申書を区に提出
- 平成 16 年 10 月 「大田区区民活動との連携・協働に係る基本方針」策定
- 平成 17 年 4 月 「大田区区民協働推進条例」施行
- 平成 17 年 5 月 大田区区民協働推進会議スタート

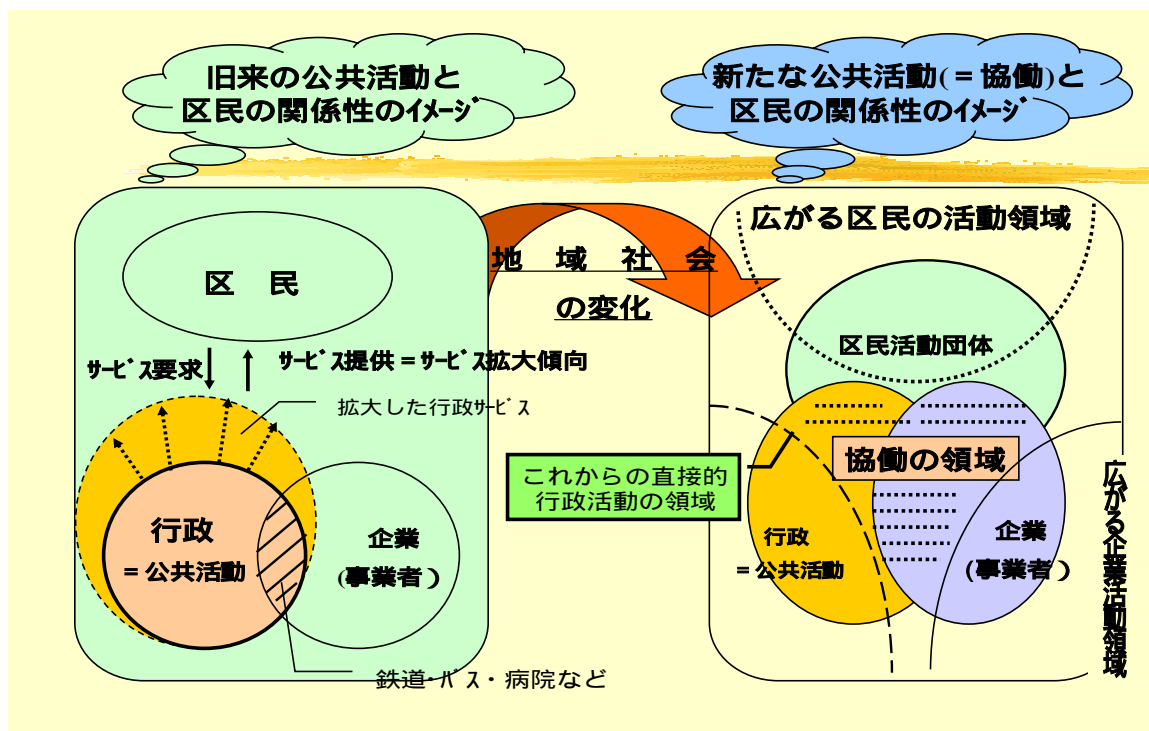
区民協働推進会議とは

区は、区民の理解のもとに協働を推進していくため「大田区区民活動との連携・協働に係る基本方針」「大田区区民協働推進条例」を策定し、区の目指す連携・協働の考え方を明らかにしました。区民、区民活動団体、事業者及び区の役割と連携・協働の推進に向けての方策を示しています。区民協働推進会議は、その実現に向けて具体的な活動を行っていくことを目的として設置しました。

2年の任期の中で、次の項目について活動します。

- (1) 大田区の区民協働推進に関する調査研究及び提言します。
- (2) 区民協働推進会議のあり方について提言します。
- (3) 大田区区民活動積立基金に係る助成金の交付申請の審査及び助成団体を推薦します。
- (4) その他区民協働推進会議が定めた事項について検討及び活動します。

〔区民、区民活動団体、事業者及び区との連携・協働による地域づくりのイメージ〕



会議の進捗状況

開催日	議題	配布資料
第1回 (平成17年5月20日)	経過説明 委員自己紹介とそれぞれの活動の中の課題の発表	大田区区民協働推進条例 連携・協働基本方針 パートナーシップ会議答申書
第2回 (平成17年7月14日)	具体的なテーマの絞込み	区と区民活動との連携・協働の現状
第3回 (平成17年9月22日)	具体的なテーマの絞込み	区と区民活動との連携・協働の現状(地域別) 旧蓮沼小、旧北蒲小施設活用協議会概要 区民活動団体と区との協働事業に関する委託契約金額や補助・助成制度の事業費
第4回 (平成17年11月17日)	具体的なテーマの確定	庁内における区民活動団体との協働に関するアンケート調査結果
第5回 (平成18年1月26日)	「地域防災」について検討	防災課組織図・事業概要
第6回 (平成18年3月27日)	「地域防災」について検討 中間のまとめ	

今までの具体的な検討(平成17年5月から平成18年3月)

この推進会議では、2年の任期の中で与えられた使命を実現するために、地域の課題をいくつかのテーマに分類し、区民活動団体、事業者及び区が連携・協働して進めることで、公益的なサービスの質が高まり、地域力も高まるような仕組みを提案したり、実験的に取り組むことを検討します。

【各委員の主な意見】

- 区民・・・ 価値観が多様化している中で、地域と積極的な関わりが持ちにくい。
子どもの安全が心配なので地域の人に見守って欲しい。
地域や行政に自分のプライバシーまで分かることは望まない人が多い。
昔のように支えあいが必要と思うがどのように考えればいいのか。
企業のCSRを子どもたちの教育に向ける体制づくりをしたい。
一人ひとりの価値観が多様化している。しかし、生活での不安要素はたくさんある。
- NPO・・・ 自らの目標を達成するためには、行政の力がぜひとも必要。
自分たちの活動で手がいっぱい他のセクターとの連携が必要とわかっていても取り組む余裕がもてない現状がある。
行政が取り組んでいないサービスを提供したり、地域の課題解決に取り組むことを考え活動している。
ITを活用した区民参加型の社会を構築したい。
NPOの教育力を集結させ、こどもたちの教育支援を行う。
- 自治会・町会や青少対・・・ 地域のことは一番把握していると思う。
弱者支援など課題が山積するが地縁組織だからこそ、避けて通ることはできない。
次代を担う子どもたちに目を向けることが大切です。
行政との連携は長い歴史の中で培われたものである。
NPOの活動が地域では知られていないケースもあり、上手にPRする工夫が必要。

事業者・・・ 企業は、地域の皆様に役立つことが第一であり、地域の一員であるという気持ちを認識している。

地域の団体との交流や、清掃活動など付き合いを心がけている。

学校からの見学やインターンシップの受け入れで社会貢献している。

イベントでの売り上げなどを地域団体に寄付している事業者もある。

企業の地域貢献の一番は、防災的なことだと考えている。

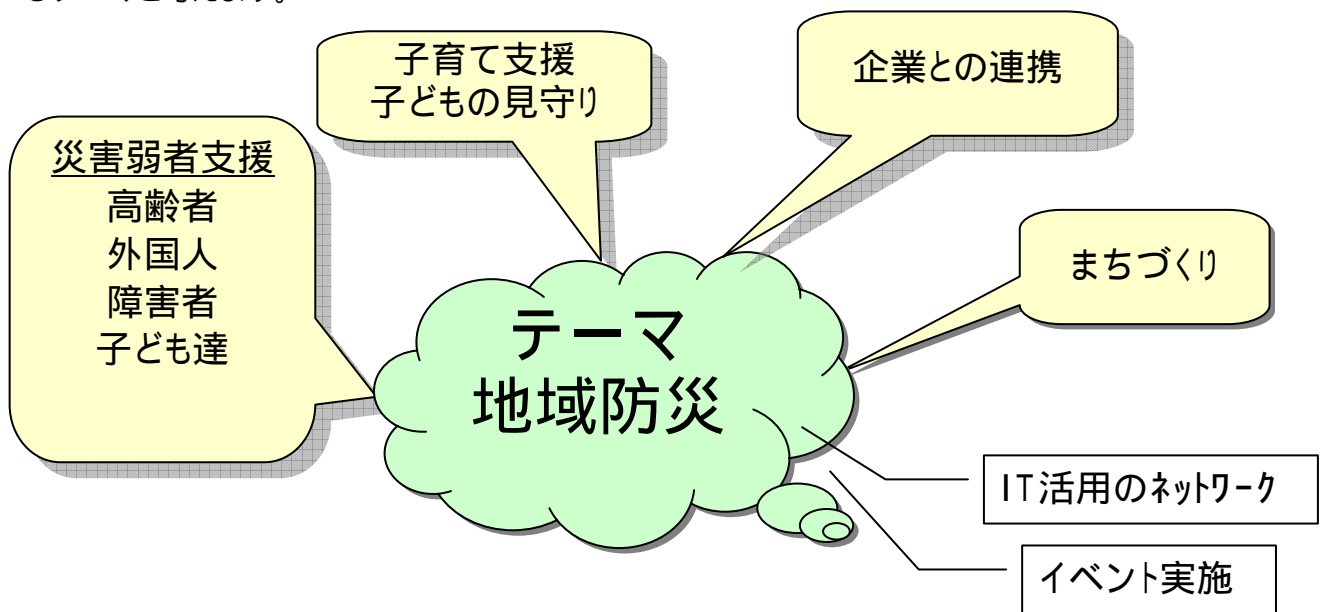
〔具体的なテーマの検討〕

推進会議では、「具体的なテーマ」選定の検討をし、具体的なテーマについて、区民、区民活動団体、事業者及び区の連携・協働の方法や進め方、その影響などについて検討、実践することで、「協働」の機運が高まると考えます。

昔ながらの地域での支えあいなどの同じような仕組みが生まれる協働もあれば、街づくりを推進する協働、区の公的サービスではまかなえない部分をフォローする協働など、「協働」という手段をいかに駆使して、住みやすい、豊かな地域社会を作り上げていくかということが重要です。

具体的なテーマを導き出すための議論の中で、地域防災、子育て支援、まちづくり、ITを活用したネットワークづくりなど様々な意見が出ました。推進会議では、上述の意見を共通認識し、新しい協働のスタイル、場面を創出するために、地域防災をテーマとして挙げました。

「地域防災」をテーマとした理由は、次の図のように、災害時の活動を考えると、日頃から、様々な区民活動団体が関係性を築くことにつながり、そのことが区民協働につながると考えました。区民、区民活動団体（町会・自治会、青少対、NPOなど）、事業者、区がそれぞれの役割をもって、取り組めるテーマと考えます。

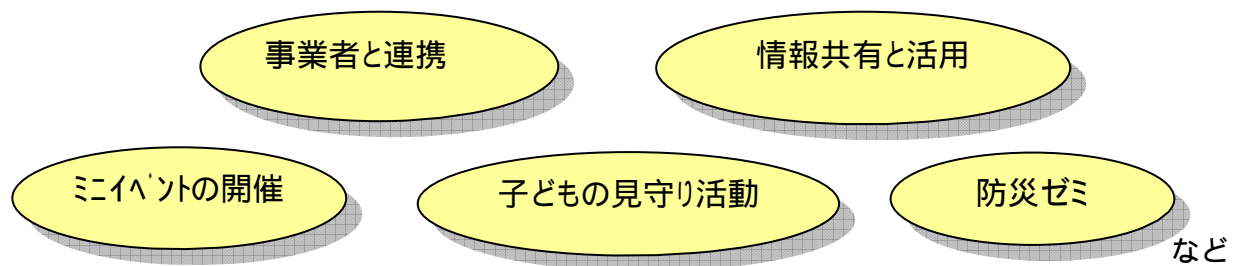


これからの展開（平成 18 年 4 月から平成 19 年 3 月）

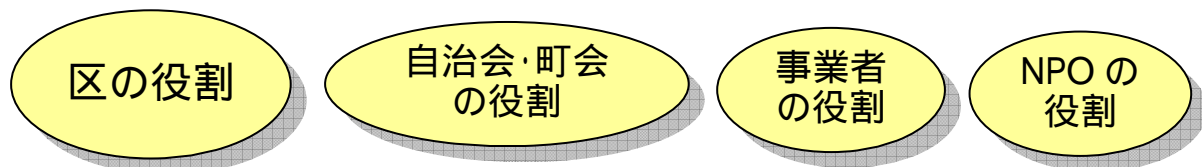
「地域防災」というキーワードで、大田区での連携・協働の具体例を入れて提言します。

- ・ 地域の企業の皆さんとの連携はどうか？
- ・ 日頃の子どもの見守り活動をどのように展開するか？
- ・ 子育て支援について地域としてできる役割は？
- ・ 日ごろの連携や協働がとても大切。
- ・ 被災時のための地域づくり、まちづくりの工夫。
- ・ ボランティアをどのように活用できるか？
- ・ ボランティアの受け入れ体制について
- ・ 高齢者の避難をどうか？
- ・ ペットの問題
- ・ 外国人の対応について
- ・ 行政の支援が得られるまでの対応は？
- ・ 帰宅困難者の受け入れをどうか？
- ・ 障害者の把握、対応をどうか？
- ・ 子ども連れの避難者をどのように受けられるか？

協働の新しい場面・スタイル



各セクターがどのようなことかできるか検討します。



大田区区民活動積立基金助成事業

平成 17 年 4 月 大田区区民活動積立基金を設置しました。この基金を活用し、平成 18 年 4 月から、区民活動を支援する助成制度をスタートします。大田区区民活動団体データベースに登録している区民活動団体が行う公益的な事業に対して助成します。推進会議では、応募事業の審査に係わり、助成先の団体を区長に推薦します。

大田区区民協働推進委員

会長

山岸秀雄 学識経験者（法政大学大学院客員教授、NPO 法人 NPO 株式会社センター理事長）

副会長

玉田雅己 公募委員（NPO 法人パインガル・パインガルろう教育センター龍の子学園理事）

中島寿美 団体推薦委員（六郷地区自治会連合会会長）

委員

阿部リエ 公募委員（小学校英語講師）

中野真弓 公募委員（こらぼ大森運営協議会事務局員）

栗原洋三 公募委員（NPO 法人 IWC/IAC 国際市民の会理事長）

富田稔 団体推薦委員（青少年対策地区委員会会長）

浜洋子 団体推薦委員（NPO 活動団体交流会監査役）

野村進一 区内事業者（株式会社チョコレート工房）

赤池久 区内事業者（株式会社）

事務局

高橋幾夫 区民生活部長

近藤倫生 区民・国際交流課長

山本成俊 区民・国際交流課協働担当係長

吉田隆夫 区民・国際交流課協働担当